

石川町 議会だより

No. 175

平成25年 8月1日

発行/石川町議会
編集/石川町議会広報
編集特別委員会



▲できたよ! たなばたかざり。(第2保育所年長組)

2013
6月定例会

P2 **21 案件を審議**

P3 **あなたから出された請願**

P4 **町政を問う** (7人が質問)

P12 **あれからどうなった?**
(一般質問のその後は)

6月
定例会

日曜議会を開催 36人が本会議を傍聴

議案・請願など	採決	賛・反
繰越費の報告 石川中学校体育館耐震補強事業など6事業が24年度内に事業と予算の支出が終わらないため、25年度に持ち越すことの報告		
税条例の一部改正 震災復興基本法により防災施策に財源を確保するため、住民税均等割率が10年間3,000円から3,500円に増額となる	可決	全員賛成
税特別措置条例の一部改正 企業立地促進法による固定資産税の免除のための、県や町などが定める産業集積活性化基本計画の国の同意日が延長されるため	可決	全員賛成
復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正 福島復興再生特別措置法が改正されたことによるもの	可決	全員賛成
国民健康保険税条例の一部改正 課税方式から資産割を除くことや、25年度の基礎課税額の決定など	可決	全員賛成
一般会計補正予算 ぶくしま森林再生事業委託料7,052万円増、道路維持補修事業700万円増など	可決	全員賛成
介護保険特別会計補正予算 前年度繰越金を財源に、国庫支出金等返還金を145万円増額するもの	可決	全員賛成
防災行政ラジオ購入契約の締結 防災行政無線の難聴対策に防災行政ラジオを各世帯に貸与するもの	可決	全員賛成
消防ポンプ自動車購入契約の締結 23年が経過した石川分団第4部貸与の消防ポンプ自動車を更新するもの	可決	全員賛成
石川町役場庁舎を街中につくることを求める請願 請願者 石川町役場庁舎を街中につくる会 我妻滋夫 ほか2名	不採択	賛成4 反対8
福島第一原発事故による損害賠償請求権の時効消滅を停止する立法措置を求める意見書提出の請願 請願者 社会民主党石川総支部 芳賀正人	採択	全員賛成
原発事故子ども・被災者支援法に基づく施策の早期実施を求める意見書提出の請願 請願者 社会民主党石川総支部 芳賀正人	採択	全員賛成
解雇の自由化など労働者保護の規制緩和に反対する意見書提出の請願 請願者 社会民主党石川総支部 芳賀正人	採択	全員賛成
須賀川・石川地域の医療の充実・強化を求める意見書提出の陳情 陳情者 須賀川・石川地域の医療を考える会代表 片野ミチ子	採択	全員賛成
年金2.5%の削減中止を求める意見書提出の陳情 陳情者 全日本年金者組合福島県東支支部長 石沢泰伸	採択	全員賛成
福島第一原発事故による損害賠償請求権の3年の時効消滅を停止する立法措置を求める意見書提出の請願 陳情者 福島県弁護士会会長 小池達哉	採択	全員賛成
福島第一原発事故による損害賠償請求権の時効消滅を停止する立法措置を求める意見書 提出者 矢内 義将 議員	国・省庁へ提出	可決 全員賛成
原発事故子ども・被災者支援法に基づく施策の早期実施を求める意見書 提出者 角田 忍 議員		可決 全員賛成
解雇の自由化など労働者保護の規制緩和に反対する意見書 提出者 瀬谷 京子 議員		可決 全員賛成
須賀川・石川地域の医療の充実・強化を求める意見書 提出者 永沼 一夫 議員		可決 全員賛成
年金2.5%の削減中止を求める意見書提出の陳情 提出者 関根 信次 議員		可決 全員賛成
福島第一原発事故による損害賠償請求権の3年の時効消滅を停止する立法措置を求める意見書 提出者 下山田和雄 議員		可決 全員賛成

6月定例会は6月13日から18日までの6日間の会期で開かれました。税条例の改正や補正予算など8議案が提案され、原案のとおり可決したほか、請願4件、陳情3件、議員発議6件を審議しました。また、一般質問は16日(日)に日曜議会として開き、7人の議員が町政に対し質問しました。傍聴には、本会議(一般質問)に36人、常任委員会に20人が訪れました。



▲保険制度で安心の医療を
国保税の資産割(土地や建物)算出は、平成25年度から完全廃止となり、所得割、均等割、平均割で計算されます。1世帯あたり平均10万3,908円、1人あたり5万6,256円になりました。

国保税率きまる

あなたから 出された請願

1月11日の第1回臨時会において「役場を長久保に移転するための条例の改正」が可決されたことを受けて、町民から役場庁舎を街中につくることを求める請願が議会に提出されました。

審議を付託された常任委員会は、請願代表者（我妻滋夫氏）を参考人として委員会に出席を求め、請願の趣旨を説明していただいた上で、審議を行いました。

また、本会議では自由討議が行われ、全議員が意見を述べた後、採決を行いました。

石川町役場庁舎を街中につくることを求める請願

請願者
石川町役場庁舎を街中につくる会
我妻滋夫
角田美公
吉田数重

常任委員会審議

総務産業建設常任委員会

賛否の討論



▲参考人から請願の趣旨を聞く

開かれた親しまれる庁舎が建てられ、防災の拠点になることを望んでいる。4候補地の中で一番条件を満たすのが長久保であった。反対する。（下山田）

反対 7回の全員協議会で町の説明、8回にわた

反対 庁舎は老朽化と分散で大変不便をきたし、その解消がやつとできる

賛成 非常に面積が狭く、職員駐車場もとれない。石川郡内で一番交通量が多く事故が多い。これからは集約型のコンパクトな町づくりがすすむ

賛成 当初、私は町民グランドが良いと思っていた。しかし統合になる小・中学校の間に役場があると、子ども達の通学や送迎の車と役場関係の車両で大変混雑が予想され難しいと思った。現庁舎は安心できる状態ではなく、この機会を逃さず早急に建設を望むものであり、反対する。（角田）

賛成 街中再生には財政の裏付けがなければならぬ。また、街中にいろいろつくるといっても日常的なものでなければ人を集める力にはならない。議会が決めた重みもあるが町民の意向はもっと重い。主権者は町民である。町民が異議を唱えれば勇気をもって反対することも必要であり、賛成する。（中村）

賛成	反対
瀨谷 矢内	下山田・角田 二瓶

審議結果
「不採択」
(賛成2・反対3)

賛成	反対
瀨谷 関根(信) 矢内	草野・下山田 関根(武)・渡邊 遠藤・永沼 角田・二瓶

本会議審議

賛否の討論

反対 1月に3分の2の特別多数議決で可決された。測量・地質調査が済み、基本設計、プロポーザルに入ろうとしている。庁舎が長久保に移ることで、現庁舎、現分庁舎、県合同庁舎などを利用する新たな方向性が出ると思う。議決された事業を粛々と進め、これからの町づくりを共に考えていくことが重要であり、反対する。（遠藤）

賛成 住民の意志、これが重要だ。住民あつての役場である。長久保への移転は放っておけないという観点から署名運動に至っている。町の将来を考えた場合、いったん立ち止まって慎重に考え直す必要があると考え、賛成する。（関根信次）

賛成 非常に面積が狭く、職員駐車場もとれない。石川郡内で一番交通量が多く事故が多い。これからは集約型のコンパクトな町づくりがすすむ

賛成 住民の意志、これが重要だ。住民あつての役場である。長久保への移転は放っておけないという観点から署名運動に至っている。町の将来を考えた場合、いったん立ち止まって慎重に考え直す必要があると考え、賛成する。（関根信次）



関根 信次議員

Q 学校で、いじめはないのか

A わずかな報告があったが解決している

質問 小中学校のいじめと不登校の状況は。

答弁 いじめについては、本年度4月現在学校が認知した報告はありません。なお、昨年度は小学校8件、中学校で2件のいじめを認知しましたが、いずれも当事者や保護者を含めて対応し、全て解決済みとなっております。不登校は4月現在、小学校で3人、中学校で4人となっております、その状況に応じて家庭訪問を実施し、悩みや不安の聞き取りや登校への意欲づけ、保護者との話し合いと対応策の共有化を行っております。さらには、保健室を居場所とする登校など段階的な方法の対応も

行っております。**質問** いじめの未然防止と早期発見の取り組みは。

答弁 児童生徒の心の醸成や人間関係づくり等や道徳や特別活動の授業を中心に教育活動全体で行っております。また、いじめは絶対に許されない行為であることを見守る生徒にしっかりと伝え、校内の正義を醸成することにも力を尽くしております。



▲子どもたちの健やかな成長を（南山形小運動会）

しかし、それでもいじめは起こり得るものとの共通理解のもとに、学校担任、養護教諭、スクールカウンセラーを中心に日常的な観察や教育相談、アンケートを実施し、早期発見に努めています。

質問 不登校が発生した場合、どのような対応をするのか。

答弁 いじめも不登校も早期発見が大事です。学校に指示しているのは、無断欠席が3日続けば家庭訪問、連絡等を必ず行っています。なかなか連絡がとれない場合は学校を挙げて、担任や教務養護教諭等を動員して複数で対応しています。また、中学校では保健室登校により、カウンセラーのアドバイス等を受

けながら、少しずつ集団になれさせていく対応をとっております。

要望 全国的にいじめから大きな事件になった例がたくさんある。いじめの未然防止としっかりと学校の対応を願う。

質問 学校の理科の授業で、観察や実験を充実させることが大切だと思いが、取り組みは。

答弁 各学校とも理科の年間計画を観察や実験の実施時期、順序を考慮して作成し授業を行っております。

また、多くの実験や観察を通し、実施方法、結果のまとめや考察を児童生徒が主体的に考えて進める、問題解決型の授業を積極的に取り入れていきます。

質問 企業誘致の進捗状況は。

答弁 福岡市に本社を有する日創プロニティ株式会社が、生産体制の強化を目的に新工場を建設するため藤沢工業用地に立地することが決定となり、用地の一部について、大筋で売買の合意ができたところですが、

また、県のサポートティーチャー派遣事業を受け、理科の実験・観察をサポートする教員を配置した小学校もあります。

Q 企業誘致の状況は大筋で合意ができた

要望 地元の雇用、下請けや備品関係なども地元から利用いただけるよう会社をお願いしていただきたい。

また、県内のサポートティーチャー派遣事業を受け、理科の実験・観察をサポートする教員を配置した小学校もあります。

また、県のサポートティーチャー派遣事業を受け、理科の実験・観察をサポートする教員を配置した小学校もあります。

Q 桜まつりの成果と今後は

A 県内外からの誘客に取り組む

下山田和雄議員



質問 石川町観光誘客推進事業を伺う。

答弁 石川町の大切な財産であり、春の風物詩ともいえる「いしかわの桜」を県内外に広くPRし、誘客活動を積極的に推進します。

今年度は大手観光旅行会社への観光企画に、「石川町桜めぐり」を盛り込み、関東方面から観光客の誘客を行い、ツアー客は延べ500人が訪れたほか、4月の桜月間で1万5千人が来町しました。

質問 次年度は、宿泊客を増やすよう旅行会社と協議しコース設定できないか。

答弁 旅行会社と十分な打ち合わせをし、石川町に泊まることでメリットがあることを、来年度のプランに入れていただくよう協議します。

質問 さくらの里づくり愛護団体等への支援は。

答弁 「さくらの郷づくりプロジェクト」を推進するため、地区まちづくり交付金や国県の補助金などを活用し、様々な取り組みに対し支援していきたいと考えています。

要望 各地域で取り組むことで、すばらしい桜の町になると思っているので、支援体制の強化をお願いしたい。

質問 ボランティアガイドの育成は。

答弁 おもてなしの心をもった桜の案内は、観光客の方々に大変喜ばれました。桜に限らず町全体を紹介できるようなボランティアガイドの育成についても、今後検討していきます。

Q サイクルロードレースのさらなる取り組み

A 町の重要なスポーツイベントとして取り組む

質問 本町での、サイクルロードレースは、一般公道を使用した国際的にも通用するコースであり、この大会をさらに町を挙げて取り組むことはできないか。

答弁 町のスポーツの祭典として周知が図られ、石川町の特設コースで行われる公道レースで、起

伏の激しい実業団ロードレースの中でも、選手の技術と実力がうかがえるハイレベルなコースとの評価を受けています。

各団体からの役員ボランティア、地元行政区による選手へのおもてなし、コース規制への協力と大勢のボランティアに参加いただいで、今後も石川町の大きなイベントの中に取り入れていきます。

Q パークゴルフ場の整備

A 用地面積を考え検討する

質問 昨年の6月議会の質問で、パークゴルフ場の整備に前向きに検討するとの答弁だったが。

答弁 誰もが気軽に楽しむことのできる生涯スポーツだが、1万2千平方メートル以上の面積が望ましいとされており、本町におきましては、総合運動公園や遊休地活用が考えられるところですが、さらに検討してまいります。

要望 長寿社会のまちづくりの構築に必要と思う。多くの方がプレーすることを待ち望んでいる。早急に実現を願う。

質問 町営住宅の建設計画は。

答弁 平成30年度までに12戸を整備する予定で、今後は、民間の賃貸住宅や空き家等の活用を勘案したうえで、今年度策定する「町営住宅長寿命計画」の中で住宅の整備を進めてまいります。



▲ボランティアガイドが桜をPR



関根 武一議員

Q 統合学校の通学は路線バスを利用か

A 専用バスを中心に検討する

利用するとしているが、登下校時の児童生徒の安全を確保するための対策は。

【答弁】 統合学校への通学バスの運行については路線バスの活用を中心に提案してきましたが、バス

停まで遠距離にある児童の利便性の確保や、狭い道路にあるバス停への不安などから、専用バスの運行を望む声が多くありました。

そういった要望を考慮し、近隣町村におけるバスの運行状況等を踏まえ、統合準備会では、専用バスを中心に運行することを検討しています。

通学バスの利用は、学校での指導を徹底し安全が確保できる体制を整えていきます。

【質問】 交通安全教育の実施状況と今後の課題は。

【答弁】 交通ルールの厳守や交通事故防止に関して理解できるよう実施しており、今後も継続していきます。

Q 桜まつりの成果は1万5千人が来町

【質問】 観光資源を活かした町づくりをすすめているが、今年のさくら月間を含めた桜まつりの成果は。

【答弁】 今年の桜月間については、さくらロードレースを皮切りに、石川桜まつり、花見弁当選手権、花より団子選手権を開催しました。

新たに大手観光会社の観光企画に「石川町桜めぐり」を盛り込み、関東方面からの観光客の誘致を図った結果、桜月間中の来町者数は延べ1万5千人を数えました。

【質問】 桜以外の観光資源の活用は。

【答弁】 石川町には、奥州

一ノ宮の石都々古和氣神社、自由民権運動発祥の地など多くの歴史的資産や寺院、また貴重な鉱物の宝庫としても広く認知されています。

こうした資源と、母畑石川温泉を組み合わせた滞在型観光や、体験型観光を推進します。

また、八槻市、石都々古和氣神社例大祭の県内外へのPRなど年間を通じた観光事業を推進していきたいと考えています。

【質問】 統合準備会の委員が決まり統合に向けた具体的な話し合いが始まったが今後の進め方は。

【答弁】 統合準備会は、関係団体や町民の方々の意見を広く求め小中学校の円滑な統合を図ることを目的に、各小学校区域の行政区長やPTA等の推薦を受けた77人の委員で組織されています。

また、準備会内には総務部会、教育振興部会、通学検討部会と3つの専門部会があり、それぞれの部会で統合小学校の校章、校歌の制定、教育目標、制服、運動着及び教材備品、通学方法等について検討を行います。

【質問】 通学は路線バスを



▲家庭の交通安全推進員委嘱状交付（母畑小交通安全教室）

Q まちなかに相談室の設置を

A 重要な課題であり、検討する

渡邊 實議員



【質問】 1月11日、議会は役場庁舎の位置を長久保に変更することを決定し、建設が進められているが、町民から不安や心配の声が出されている。町はこの声に応えていかなければならないと思う。「市街地がさびれる」の声にどう応えるのか。

【答弁】 6月に「まちなか再生委員会」を設置、12月に「まちなか再生行動計画」を策定します。来年度から中心市街地衰退の解決に向け、事業を実施します。

【質問】 若い人に計画段階から参加してもらう工夫を。

【答弁】 商工会青年部とも

連携し、会議も工夫します。

【質問】 行政区とも積極的に話し合いを持つべきと思う。委員会答申に対する町長の考えは。

【答弁】 答申はきちんとしていきたいと思います。

【質問】 事業進行の議会報告は。

【答弁】 報告します。

【質問】 市街地に相談室を設置し、行政サービスの向上を。

【答弁】 検討します。

【質問】 高齢者など交通弱者は心配している。検討では困る、是非実施を。

【答弁】 重要な課題として検討します。

【質問】 新庁舎を中心とした道路の整備が必要、考えは。

【答弁】 国道118号から右折レーンを設置し、進入を容易にします。将来は警察署脇からの町道220号への接続を図り、長久保から北町へ通じる町道219号も整備します。

また、路線バスや町のマイクロバスの活用を検討

討論します。

【質問】 巡回バスの運行は。

【答弁】 町のマイクロバスの活用を検討します。

Q 福島交通石川営業所からの町道の整備は

A 26年度までに整備する

【質問】 石川中学校と石川小学校の保護者の送迎者数は。

【答弁】 昨年7月の調査で、毎日送迎世帯は、石川中154世帯、石川小118世帯です。

【質問】 毎日、272台の車が朝夕に集中。通学や駐車場の整備、交通規制などが必要である。

福島交通から町民グラ

ウンドまでの町道4042号の整備は。

【答弁】 平成26年度までに整備します。

【質問】 新町郵便局から中学校までの町道115号の整備は。

【答弁】 今後、県と協議し進めます。

【質問】 狭く危険であるので早急な整備を要望する。また、林道松作線の整備を。

【答弁】 2〜3年くらいの気持ちで取り組みたい。

Q 原発損害賠償請求時効阻止の取り組みを国県に働きかける

【質問】 放射能の風評被害

が続いている、その対策は。

【答弁】 町風評被害産業支援対策行動計画をつくり、検査体制の充実、土壌検査、首都圏へのキャンペーン、6次化産業の充実など進めています。

【質問】 土壌のセシウムマップができたが活用は。

【答弁】 昨年、600カ所を調査し土壌マップを作成、説明会などで活用します。

【質問】 農産物の検査を行い、その結果を消費者に公表していくことが重要だ。米の全袋検査は25ベクレル以下は分かるが、数値は分からない。これではだめだ。

【答弁】 県に働きかけます。

【質問】 原発事故による損害賠償請求時効が3年であり、阻止に特別立法が必要。町の考えは。

【答弁】 国県に働きかけます。

【要望】 今までの8万円、4万円の請求も、町内で100%になっていない、町で請求しない人に働きかけて欲しい。



▲学校統合のため町道115号線の改良を



中村孝太郎議員

Q 庁舎移転、署名の声をどう受け止める

A 常識ある委員会答申、議会も承認した

質問 役場庁舎の長久保移転を決めたことに対し、街中に役場庁舎を求める署名運動が起こっており、既に3800人を超えたと聞く。

役場庁舎移転の条例制定は、町民の意向確認、町民参加や町民合意を怠った極めて形式的な手続きで行われたもので、町民から誤りがあったと指摘されても仕方ないと考ええる。

庁舎建設委員の選び方、署名運動による町民の声をどのように受け止めるのか。

答弁 委員は、知識経験者が3人、区長会から7人、各種団体から6人の計16人を委嘱しました。

署名運動は、長久保までの交通便利性、交通量、街中空洞化などへの不安

が行動となって表れたのではないかと思えます。

質問 町民の意見を聞かなかつたことへの不満である。

4000人を超えるよ

うとする署名の重みをどう受け止めるか。

答弁 常識ある委員会

の答申で、議会の議決も得ているので、長久保で進めていきます。

質問 石川町都市計画マスタープランが町づくりにどのよう

にどのよう

にどのよう

にどのよう

答弁 策定当時は、福島空港の開港やあぶくま高原道路の整備など町発展の可能性を促す条件が整っていたが、計画策定後の景気の低迷や少子高齢化、急速な人口減少の中、環境変化に対応した町づくりを進めてきました。

今後は著しい社会情勢の変化に対応すべく、見直しも必要と考えています。

Q 合併浄化槽の整備を認識しており対応する

質問 石川の川がきれいな川だと感じる人は少ないと思う。

わけだ。

75人の若者の働く場所が失われたと同じだ。

常識的な臨時職員の雇用を、どのように認識しているのか。

答弁 行財政改革の経過的な措置の中で、一部に臨時職員の常態化がみられるが、今後も限られた人員により、職員配置の一層の効率化・適正化を推進すると共に、直営事業の民間委託や民営化を含む施設の管理・運営を検討します。

質問 保育所の正職員の平均賃金と臨時職員の日額はいくらか。

答弁 職員は平均年齢約42歳前後で33万円程度。臨時職員は有資格者で日額7200円です。

質問 保育士の半数近くを常態的に臨時職員で置くことや、長生園の看護師を臨時でよしとする、人件費削減のために働く人を軽く扱うことに怒りを感じる。

町職員の現在数は148人、平成11年は223人だったから75人減った



▲もっときれいな水質にならないか（今出川）

Q どうする老朽化町体育館

A 現石川小体育館を町体育館に

瀬谷 京子議員



質問 町民グラウンドに統合小学校を建設することに伴う代替施設は。
答弁 総合運動公園の多目的広場を中心とする公園内の施設を計画しています。
 野球場は残るため、今までどおりの利用が可能です。平日は多目的グラウンドとして活用できます。石川中学校野球場を、授業や部活に支障のない範囲で一般に開放します。
質問 町民グラウンドの使用は今年一年と聞いている。総合運動公園の多目的広場は地盤が固く競技に支障をきたしているが対策は。
答弁 一昨年、土の入れ

替えをしたが根本的な解決にならず、何らかの対応は必要で、今後も検討します。
質問 総合運動公園内の通称サブグラウンドは、未整備で使用には危険が伴う。今後の整備計画は。
答弁 すでに整備したのは、物置、サッカーゴール、ソフトボールのベース等ですが、後は周りのフェンスや水の確保など、関係者から要望も出ています。年度内には利用に支障のない最低限の整備をしなければならぬと思っています。
質問 老朽化した町体育館はどうするのか。
答弁 町体育館は、昭和41年完成以来、各種スポーツ活動や健康増進の場として利用されていますが老朽化が進んでいます。このため、統合小学校の体育館完成後、現在の石川小体育館を町体育館として活用し、現町体育館は廃止する方向です。
質問 体育施設に建物を建てる等の場合、石川町スポーツ振興審議会に諮



▲町体育館で卓球を楽しむ方々

るべきではなかったのか。
答弁 手続きを踏むのが筋でありましたが、今後審議会を立ち上げ、話をしてご理解をいただきませ

Q 庁舎移転地決定後の反対の民意をどう捉える

出し、それが署名という形になり請願書の提出となった。この町民の意思をどう捉えるのか。
答弁 庁舎の位置変更によるさまざまな変化に不安を感じる声と捉えています。今後、不安を払拭できるよう鋭意努力し、建設を進めたいと考えます。
質問 建設委員会の答申後、多くの議員が町民に説明をするべきだと言ったが、あえて町民に知らせることはないかと答弁した。町民軽視も不信に思う要因だ

が。
答弁 建設委員会はベストメンバーで常識ある人たちです。答申はあくまでも尊重しなければなりません。私のもとへ反対の意見は殆ど入って

いません、反対の意見は特定な人だけです。
質問 まちなか再生行動計画は本気で確実にやらなければならぬ。中心市街地活性化計画は8年が経過した。実行したことは。
答弁 大きな計画は実施できず、小さいことから少しずつ進めたと認識しています。
意見 この市町村も活性化が功を奏せず、結果都市機能を町の中心部に集約することだと判った。高齢化と人口減を見据え、人が住む上で必要な機能、特に公共機関などの社会インフラを町の中心部に設けることが、改めて人を寄せ、市街地活性化や、行政コストの削減になる。国交省が集約化を図る市町村に財政支援をして奨励している。住んでいる人が暮らしやすいと感じること、住民の声を聴くことは、行政として当たり前のこと。4千人超の町民の移転地反対の意思は重い。



角田 忍議員

Q どういうする林業の振興

A 停滞している林産業の再生を図る

に関する法律、ふくしま県産材利用推進方針に基づき、現在、石川町木材

利用推進基本方針を策定中です。再生可能な資源である

木材のより一層の利用推進を図ります。

化促進事業があり、利用促進に向けたサポートが行われています。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【質問】 森林の除染は必要なのか。

【答弁】 森林の除染については、国による実証事業の結果、間伐による空間線量率の低減が確認されています。

本町では、ふくしま森林再生事業を活用し、町内の森林の状況や空間放射線量の調査を実施しました。

その結果をもとに事業計画を作成し、間伐などや路網整備を一体的に実施し、放射性物質の低減化を図ります。

【質問】 地元産木材の利用促進の考えはあるか。

【答弁】 木材の利用促進については、公共建築物等における木材の利用促進



▲地元産木材の利用促進を

【質問】 森林整備のための間伐、路網整備は。

【質問】 シイタケ栽培の原木の安全性は。

【答弁】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【質問】 間伐事業、路網整備については、放射性物質対策と合わせて、ふくしま森林再生事業、森林経営計画に基づき行います。

【質問】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【質問】 地元産木材の利用をどうするのか。

【質問】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【答弁】 県産木材の利用促進を目的とする、森林と住まいのエコポイント事業があり、町としても、周知を図ります。

【質問】 シイタケ栽培の原木の安全性は。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【質問】 木質バイオマス利用促進事業とは。

【質問】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【答弁】 民間団体等に対し、木質バイオマスの利用拡大に向けた支援体制の構築や技術開発等を支援する、木質バイオマス産業

【質問】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が

【質問】 森林環境税の利用状況は。

【質問】 きのこ原木については、モニタリングの結果、一キロ当たり50ベクレルの指標値を超える状況が続いております。

【答弁】 平成18年度から導入された森林環境税を財源とする交付金事業は、町内の全ての小中学校が



▲福島交通石川営業所バスターミナル

総務産業建設

Q 今後の公共交通のあり方は

A 地域公共交通活性化協議会を設置し、計画を策定する

Q 今回の補正予算に、地域公共交通活性化協議会負担金、414万円が計上された。この協議会はなんのために設置する

A 今後の地域公共交通のあり方を調査検討し、対策の計画書を策定する協議会を立ち上げ、活動する負担金です。

Q なぜ今なのか。

A 市では、既に協議会が設置されているが、本町でも設置し、公共交通の対策を検討します。

Q 検討するエリアは。

A 基本的には、町内ですが、他町村との協議も出てくると考えています。

Q 構成員は。

A 国、県、住民、バス事業者、タクシー業者など20団体です。

Q 計画策定までの

日程は。

A 7月に設置し、来年3月までに計画書を策定します。

Q 協議会の予算は。

A 町の負担金と国より400万円の補助があり、住民ニーズの調査、乗降調査、計画作成委託の費用です。

文教厚生

Q サブグラウンドの整備は

A 今までどおり大会が開催できるよう整備する

Q サブグラウンドのフェンスや給水設備は、どのように整備するのか。

A 周囲を1・2m程度のネットフェンスで囲み、危険な箇所には、さらに嵩上げします。給水については、これからの暑さに対応できるよう、すぐに設置できます。

Q 近くに仮置き場があるのに、線量を測定し、安全を確保してほしい。

A 定期的な線量を測定、観察し、安全・安心に努

めてほしい。

めます。また、フェンスの外に樹木を植えるなど



▲サブグラウンドの整備がすすむ総合運動公園

して、景観を保つようにします。

Q 町民グラウンド利用により増えてきたスポーツ交流人口が減少しないよう、整備をしっかりと行ってほしい。

A 今までどおり大会が開催できるよう、今年度中にできる限り整備を行っていきます。

あれからどうなった？

一般質問のその後は

平成24年6月定例会より

防災行政ラジオの貸与は

● 「防災行政無線の難聴地域への対策は」の質問に対し「防災行政ラジオの導入を検討中」との答弁であったが、その後は

● 防災行政ラジオは、通常はラジオとして利用できませんが、町からの防災行政無線が発信された場合は、優先的に防災行政無線を受信できる構造となっております。
町では、本格的な導入に向けて検討してまいりました。
平成24年度に、防災行



▲貸与される防災行政ラジオ

政ラジオ導入に向けて、戸別受信機未設置世帯に

モニタリング調査を実施した結果、概ね良好に受信できることから、導入を決定し、平成25年度の当初予算に購入費を計上しました。

本年11月中旬から希望する世帯に貸与し、防災行政無線の難聴地域の解消を図っていきます。
なお、申し込み等については、今後、行政長を対象に説明会を開催する予定です。

一般廃棄物最終処分場

協定の進展は

● 『一般廃棄物最終処分場、地元との協定を最優先に』の質問に、「誠意をもって履行する」との答弁であったが、その後は

● 山形字大下地区に一般廃棄物最終処分場を建設するに当たっては、平成12年に山形区と南山形区が、石川町と石川地方生活環境施設組合との連名でそれぞれ協定書を締結しています。協定の内容は、道路、生活環境、産業振興及び最終処分場管理運営に関することなどが盛り込まれております。
これら協定内容の実施については、計画的に取り組んでおり、既に完了した事業もあります。特に、町道の改良整備については、平

成27年度をメドに完了できるよう努めてまいります。
今後、地元の皆様

のご理解をいただきながら協定内容の早期実現に向け取り組んでまいります。



▲道路が改良された箇所（山形字須沢地内）

議会活動のほろいづく



▲待望の企業誘致がきまる

藤沢工業用地の工場立地調印式

7月16日、藤沢工業用地の工場立地調印式が行われました。

調印は福島県の内堀雅雄副知事に立ち会いいただき、日創プロニティ株式会社（福岡市）代表取締役社長石田利幸氏と加納武夫町長との間で厳粛に行われ、正式に工場立地が決まりました。

議会を代表して、大野議長、二瓶副議長、渡邊総務産業建設常任委員長が出席しました。

栃木県高根沢町議会が来町

6月21日、栃木県高根沢町議会が、視察研修に来町しました。

高根沢町には、文教厚生常任委員会の研修で伺ったことがあります。高根沢町議会は昨年、

初めて議会報告会を開催し、研修はお互いの議会報告会について意見交換を行いました。

高根沢町議会報告会では、議会の役割、決算審査報告、重要施策の説明、委員会報告を行い、会場は2カ所で、2日間開催したそうです。

当議会も高根沢町議会の報告会を参考にしながら、今年の報告会の準備を始めています。



▲議会報告会をもっとよくしたい

和やかに角田市の議員と交流

5月15日、石川町と姉妹都市である宮城県角田市の議会議員との親善交流会が行われました。

今年、石川町の母畑レークサイドセンターを会場に、グラウンドゴルフで交流しました。



▲好スコア続出!! そうでない方も...

開会前に、母畑長寿会の皆さんに競技の方法を教えていただきプレー開始。チーム平均打数で競った結果、石川町議会チームが優勝しました。

晴天に恵まれ、町とゆかりのある角田市の議員と楽しく交流することができ、来年の再会を誓いました。

議会広報の向上をめざして

7月1日、議会広報編集担当議員6人は、ビッグレットふくしまで行われた、議会広報研修会に参加しました。

手にとって読んでもらえる議会広報をめざし、「表紙写真の重要性」、「行政用語ばかりにならないか」、「引きつける見出し」などを学びました。

研修を生かして、今後の広報編集に努めていきます。



▲読んでもらえる議会広報とは

未来に向かって!!

― 高校生の声 ―

県立石川高校

3年 三森拓哉

教師になりたい



三森拓哉さん

目的で行われる行為、いわゆる「体罰」があります。私は体罰を受けたことも、その現場を見たことも、その現場を見たこと

もありませんが、教師を目指している以上、無視のできない問題だと感じています。

また、生徒の間での「いじめ」についても大きな問題のひとつとなっています。いじめられる側にも何らかの原因がある、という意見もありますが、やはり親身となって対処していかなくはならない問題であることは間違いなくも思っています。

学校の前生という仕事は、きつと私が思っている以上に大変だと思いません。簡単になれるものではないし、先程挙げたような問題を解決していくという課題もあります。しかしそれは、これからの社会を担っていく私たちの果たすべき義務であり、公務員として社会に貢献することの意義であるとも思っています。

受験勉強のひとつとして、私は英単語の暗記をしています。

1日十数個の単語とその意味を覚え続けることは、簡単ではありません。しかし、それによって授業で扱う例文が学習する前から和訳できたり、日常においてよく目にする英語の表す意味が分かったりします。

数学も、答え

私は現在県立石川高校に通っており、忙しく充実した毎日を送っています。入学してから続けてきた弓道を6月1日の県大会を最後に引退し、本格的に受験勉強をスタートさせました。

私は将来、中学か高校の教師の職に就きたいと思っています。自分の力を教育といった形で役立てられるならば、是非そうしたいです。

近頃、教育現場における問題のひとつとして、指導者が私的に罰を科す



▲集中して的確をねらう(弓道大会より)

ありませぬ。学校の先生という仕事は、きつと私が思っている以上に大変だと思いません。簡単になれるものではないし、先程挙げたような問題を解決していくという課題もあります。しかしそれは、これからの社会を担っていく私たちの果たすべき義務であり、公務員として社会に貢献することの意義であるとも思っています。

編集後記

6月定例会(日曜議会)は、大きな意義のある議会でした。

役場庁舎移転に関する請願を審議するため、常任委員会に参考人の出席を求め説明を受けました。

また、本会議最終日には議員間で自由討議を行いました。

いづれも町議会史上初めてのことで、庁舎移転は、将来のまちづくりと、私たちの生活に大きく影響を与えることから、町民の皆さんの関心も高く、多くの傍聴者がありました。

今議会は、町民と議会と執行部それぞれのあり方とはどういふものか、真の協働のまちづくりとは何かを、改めて問われた議会でした。

瀬谷京子

議会を傍聴 しましょう

議会は、本会議・委員会とも傍聴できます。

9月定例会「一般質問」は9月9日(月)の予定です。

議会広報編集特別委員

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 瀬谷 京子 |
| 副委員長 | 関根 信次 |
| 委員 | 草野 伝明 |
| 委員 | 下山和雄 |
| 委員 | 渡邊 實 |
| 委員 | 遠藤 貢蔵 |